

第1次千葉県食育推進計画における重点施策の課題

凡例

健康福祉
関係

教育・保育
関係

左記以外の部局及び
農林水産関係

資料1

主な施策	主な取組内容及び成果	課題(項目)	課題																																																			
<p>1 親から子へ つなぐ生命</p>	<p>① 家庭における食育の推進と健康づくり</p>	<p>1) 子どもの頃からの食習慣等が生活習慣病につながることから、<u>子どもの健康実態調査等や食育指導者を対象とした研修会を開催。</u></p> <p>2) 家庭における食育を推進するため、ホームページや携帯を利用した情報発信や相談事業、啓発セミナー等による男女共同参画や仕事と生活の調和の促進、関連計画との連携により、家庭支援に努めた。</p> <p>3) 家庭における安全な食生活の確保については、リーフレットの作成・体験事業等及び適正な表示等に関する助言・指導を実施し、正しい知識の普及啓発を図った。</p> <p>【学童期からの生活習慣病予防事業】 H20～H22年度 鎌ヶ谷市、鴨川市、木更津市の小学生等を対象として実施</p> <p>【小学生の肥満傾向児の割合】</p> <table border="1" data-bbox="834 1318 1353 1381"> <tr> <th>H19年度</th> <th>H21年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>8.7%</td> <td>7.7%</td> <td>7.5%</td> <td>8.5%以下</td> </tr> </table> <p>【健康づくりに取り組むことができる環境にあると思う県民の割合】</p> <table border="1" data-bbox="834 1507 1353 1570"> <tr> <th>H19年度</th> <th>H21年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>47.8%</td> <td>50.4%</td> <td>50.5%</td> <td>増加</td> </tr> </table>	H19年度	H21年度	H22年度	目標値	8.7%	7.7%	7.5%	8.5%以下	H19年度	H21年度	H22年度	目標値	47.8%	50.4%	50.5%	増加	<p>① 家庭での食育と栄養バランスの充実には「ちば型食生活」の実践が重要</p> <p>1)食育の基本は家庭であり、家庭での食育を実践するためには「ちば型食生活」のさらなる普及啓発と理解促進が必要。</p> <p>2)栄養バランスのとれた「ちば型食生活」の実践は重要。</p> <p>3)県民が日常の食生活で実践するよう、食育ボランティアや市町村、関係機関等と連携を図り周知の徹底と理解促進を図ることが必要。</p> <p>【食生活に改善意欲のある県民の割合(成人男性)】</p> <table border="1" data-bbox="1863 661 2457 766"> <tr> <th></th> <th>H19年度</th> <th>H21年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>成人男性</td> <td>74.7%</td> <td>72.4%</td> <td>85%以上</td> </tr> <tr> <td>成人女性</td> <td>85.6%</td> <td>80.4%</td> <td>87%以上</td> </tr> </table> <p>【栄養バランスに気をつけている県民の割合】</p> <table border="1" data-bbox="1863 861 2300 934"> <tr> <th>H19年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>82.5%</td> <td>82.6%</td> <td>90%以上</td> </tr> </table> <p>【健康の維持・増進のため運動をしている県民の割合】</p> <table border="1" data-bbox="1863 1039 2478 1155"> <tr> <th></th> <th>H19年度</th> <th>H21年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>成人男性</td> <td>64.2%</td> <td>73.5%</td> <td rowspan="2">74%以上</td> </tr> <tr> <td>成人女性</td> <td>61.0%</td> <td>69.6%</td> </tr> </table> <p>② 食の環境づくりの推進</p> <p>1)共働き世帯や高齢者等の単身世帯の増加。</p> <p>2)食生活が変化し、惣菜専門店やコンビニエンスストアなどで販売される惣菜、弁当、調理パンなど、家庭内で食する惣菜等への依存度が依然として高い。(食の現状)</p> <p>【高齢者のみの単身世帯】(平成22年)191,292世帯</p> <p>【料理に取り組んでいる県民の割合】</p> <table border="1" data-bbox="1863 1564 2374 1638"> <tr> <th>H19年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>70.1%</td> <td>73.3%</td> <td>増加</td> </tr> </table> <p>1)家庭での食育を実践するため、「ちば型食生活」を普及啓発し、理解と活用を促進することが大切。</p> <p>2)7割の県民が料理に取り組んでいるが、料理をしない県民については、その理由を調査し、料理を始めるきっかけを作ることが必要。</p>		H19年度	H21年度	目標値	成人男性	74.7%	72.4%	85%以上	成人女性	85.6%	80.4%	87%以上	H19年度	H22年度	目標値	82.5%	82.6%	90%以上		H19年度	H21年度	目標値	成人男性	64.2%	73.5%	74%以上	成人女性	61.0%	69.6%	H19年度	H22年度	目標値	70.1%	73.3%	増加
H19年度	H21年度	H22年度	目標値																																																			
8.7%	7.7%	7.5%	8.5%以下																																																			
H19年度	H21年度	H22年度	目標値																																																			
47.8%	50.4%	50.5%	増加																																																			
	H19年度	H21年度	目標値																																																			
成人男性	74.7%	72.4%	85%以上																																																			
成人女性	85.6%	80.4%	87%以上																																																			
H19年度	H22年度	目標値																																																				
82.5%	82.6%	90%以上																																																				
	H19年度	H21年度	目標値																																																			
成人男性	64.2%	73.5%	74%以上																																																			
成人女性	61.0%	69.6%																																																				
H19年度	H22年度	目標値																																																				
70.1%	73.3%	増加																																																				

主な施策		主な取組内容及び成果	課題(項目)	課 題												
1 親から子へ つなぐ生命	① 家庭における食育の推進と 健康づくり	1)ちば型食生活普及啓発活動 2)ちばの食育を支える民間の力の情報交換会の開催 3)地域食育推進大会の開催(県内10箇所) 4)ホームページの更新	③ 食事バランスガイド等の活用	1)「食事バランスガイド」等の普及とともに、さらに理解度を増すような活用方法の検討が必要。 【「食事バランスガイド」等を参考にしている県民の割合】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>37.0%</td> <td>30.7%</td> <td>60%以上</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>58.8%</td> <td>50.2%</td> <td>60%以上</td> </tr> </tbody> </table> (国) 1)認知度だけでなく、活用度を高めていくためには、その活用方法の更なる検討が必要。 2)理解度を高めることも重要であり、ガイドがもっと分かりやすく、利用しやすくなるようにして、例えば、学校教育で活用できるようにすることも大切。		策定時	H22年度	目標値	県	37.0%	30.7%	60%以上	国	58.8%	50.2%	60%以上
			策定時	H22年度	目標値											
県	37.0%	30.7%	60%以上													
国	58.8%	50.2%	60%以上													
1)学童期からの生活習慣病予防事業 県内モデル市町村における小学校と協働による実施 ・小学生及びその保護者に対する実態調査 ・学校・地域との協働によるポピュレーションの実施 こどもの健康実態調査、保健環境調査の実施 3年間の事業評価 2)若年者のための健康づくり事業 ・「食育指導者研修会」 13回 1,045人 ・朝食推進や適正な食習慣の普及・啓発を図るための「食と健康教室」の開催(H21) ・食生活改善推進員研修会の開催(委託) 22回 780人 3)乳幼児家庭全戸訪問事業 届出市町村 35市町村	④ 生涯にわたる間断ない食育の推進	1)子どもの朝食欠食や高齢者の栄養不足等が問題。 2)食は生涯にわたり健全な心身と豊かな人間性を育むうえで重要であることから、子どもから高齢者まで、ライフステージに応じた間断ない食育を推進することが必要。(国重点課題) 【食育への関心度】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>76.2%</td> <td>72.4%</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>69.8%</td> <td>70.5%</td> <td>90%以上</td> </tr> </tbody> </table> 1)県民一人ひとりが食育に関心を持ち、実践するための仕組みをつくることが課題。 2)依然として、食育に関心を持たない県民がおり、その原因を追究することも必要。 3)食育そのものが範囲が広いことから、県民に対し、いかにわかりやすく啓発していくかが問題。 4)関係各課、団体、企業等で連携し、情報交換や支援・協力をしながら、効果的に取り組むことが必要。 5)食育に関心のない県民に関心を持たせる工夫をした取組をすることが必要。 (国) 1)平成20年3月を頂点として、それ以降減少傾向であり、いかに国民の関心の底上げを図っていくかが課題。		策定時	H22年度	目標値	県	76.2%	72.4%	90%以上	国	69.8%	70.5%	90%以上		
	策定時	H22年度	目標値													
県	76.2%	72.4%	90%以上													
国	69.8%	70.5%	90%以上													

主な施策	主な取組内容及び成果	課題(項目)	課 題																		
<p>1 親から子へ つなぐ生命</p>	<p>① 家庭における食育の推進と健康づくり</p>	<p>1)ちば型食生活普及啓発活動</p> <p>2)ちばの食育を支える民間の力の情報交換会の開催</p> <p>3)地域食育推進大会の開催(県内10箇所)</p> <p>4)ホームページの更新</p> <p>5)ライフステージに応じた適正な生活習慣の実践に関する取組(市町村事業)</p> <p>6)健康ちば21の推進 健康ちば21改訂版の普及啓発と地域における健康づくりの推進 健康ちば21推進部会の開催</p> <p>7)健康県ちば宣言推進事業 ①健康づくり・医療・福祉関係団体、教育研究機関及び経済団体等で構成される推進協議会に対する運営支援 ②専用ホームページ等を活用した周知・啓発活動 ③民間企業・団体等が主催するイベントへの参画</p> <p>8)健康生活コーディネート市町村支援事業(H21) ①脱！メタボ普及啓発 ②生活習慣病予防対策支援事業 ③特定健診・特定保健指導人材育成 ④市町村特定健診・保健指導推進会議</p>	<p>④ 生涯にわたる間断ない食育の推進</p> <p>【毎日朝食を摂るなど規則正しい食習慣に努めている県民の割合】</p> <table border="1" data-bbox="1863 369 2386 443"> <thead> <tr> <th>H19年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.1%</td> <td>85.4%</td> <td>90%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>1)「日本型食生活」を基本とし、「食」と「健康」さらには「運動」を大切にしたい「ちば型食生活」を普及啓発し、理解と活用を促進することが大切。 2)家族ぐるみ、職場での協力等により、朝食を摂らない生活習慣を改善することが必要。</p> <p>【朝食を欠食する県民の割合の減少(20歳代男性)】</p> <table border="1" data-bbox="1863 688 2427 793"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>44.8%</td> <td>40.9%</td> <td>15%以下</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>29.5%</td> <td>33.0%</td> <td>15%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>(国) 1)大学・短期大学・専門学校において、学生生活への支援の観点から、健全な食生活の実践の重要性を呼びかける機会を設けることが期待。 2)企業において、メタボリックシンドローム対策やメンタルヘルス対策と同様、朝食摂取を含めた健全な食生活を支援する取組が期待。</p>	H19年度	H22年度	目標値	86.1%	85.4%	90%以上		策定時	H22年度	目標値	県	44.8%	40.9%	15%以下	国	29.5%	33.0%	15%以下
		H19年度	H22年度	目標値																	
86.1%	85.4%	90%以上																			
	策定時	H22年度	目標値																		
県	44.8%	40.9%	15%以下																		
国	29.5%	33.0%	15%以下																		
<p>⑤ 生活習慣病の予防及び改善</p>	<p>1)内臓脂肪症候群や糖尿病が強く疑われる者等が増加の傾向にあり、深刻な状況。</p> <p>2)生活習慣の改善が必要。なかでも食生活の改善は極めて重要。 (国重点課題)</p> <p>3)県民が正しい食習慣や運動習慣を理解、実践するために、情報提供や普及啓発が必要。</p> <p>【内臓脂肪症候群の認知度】</p> <table border="1" data-bbox="1863 1570 2386 1675"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>達成状況</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>76.6%</td> <td>73.3%</td> <td>80%以上</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>77.3%</td> <td>89.4%</td> <td>80%以上</td> </tr> </tbody> </table>		策定時	達成状況	目標値	県	76.6%	73.3%	80%以上	国	77.3%	89.4%	80%以上								
	策定時	達成状況	目標値																		
県	76.6%	73.3%	80%以上																		
国	77.3%	89.4%	80%以上																		

主な施策		主な取組内容及び成果	課題(項目)	課 題																
1 親から子へ つなぐ生命	① 家庭における食育の推進と健康づくり	<p>1)「ワーク・ライフ・バランス」の普及 ワーク・ライフ・バランス推進に向けて、企業の主体的取組の機運醸成及び企業経営者、人事・労務担当者等の理解を深めていただくためのセミナーを市町村等と共催で実施した。(7回実施、参加者延べ360名)</p> <p>2)「仕事と子育て両立支援」アドバイザー派遣事業の実施 企業に対する指導や助言・講演等を行うため、県が養成した両立支援アドバイザー(社会保険労務士・中小企業診断士)を派遣した。(12企業に派遣)</p> <p>3)県庁ホームページに「かむ力を育てる乳幼児の食事」をアップ</p> <p>4)口腔保健週間 ①親と子のよい歯のコンクール(参加組数 407) ②健歯児童・生徒中央審査会(参加者数 48) 千葉県口腔保健大会等において、千葉県知事賞受賞者等を表彰。</p> <p>3)8020運動の推進 ①障害児への摂食嚥下指導に関する調査研究等 ②医師、歯科医師等医療関係者に対する、要介護者の摂食嚥下リハビリテーションに関する研修等 ③特別支援学校や障害者施設の関係者に対する、フッ化物洗口の有効性・安全性等に関する啓発等 ④看護師等に対する、病院入院患者の口腔ケアに関する研修等</p>	⑥ 共食を通じた食育の推進	<p>1)家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図る共食は食育の原点であり、子どもへの食育を推進していく大切な時間と場であり、望ましい食習慣の実践や、食の楽しさを実感させ精神的な豊かさをもたらすと考えられることから、家庭における食育を支援することが必要。 (国重点課題、国2次計画新指標項目)</p> <p>2)「日本型食生活」を基本とし、「食」と「健康」さらには「運動」を大切にした「ちば型食生活」を普及啓発し、理解と活用を促進することが大切。</p> <p>3)仕事や子育て、介護などにより、共食の時間を作ることができない社会的背景があり、例えば、ノー残業デーの実施など、社会全体での取組が必要。</p> <p>4)共食の定義(共に食事をとる時間、共にする相手、それぞれが食べる献立の内容、場面・マナー・会話等)の捉え方は、個人により様々。食を共にする時間を、食育の視点で質の良いものとするのが求められるが、家族構成や世代間でも認識が違ふと思われるため、どの程度まで共食を理解してもらことは困難。</p> <p>【食を通じたコミュニケーションを充実させている県民の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>H19年度</td> <td>H22年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>73.6%</td> <td>70.4%</td> <td>90%以上</td> </tr> </table>	H19年度	H22年度	目標値	73.6%	70.4%	90%以上										
		H19年度	H22年度	目標値																
73.6%	70.4%	90%以上																		
2 人から人へ つなぐ文化	② 学校等における食育の推進	<p>1) <u>食に関する指導の全体計画の作成や学校・家庭・地域における関係者の連携等について、各種研修会等を通じて働きかけた。</u> ①食に関する指導事業全体研究協議会(約700名) ②食に関する指導事業地区別研究協議会(約1000名) ③新規採用学校栄養職員研修(22名) ④学校栄養職員経験者研修(42名)</p> <p>【食に関する指導全体計画を作成している学校の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>H18年度</td> <td>H21年度</td> <td>H22年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>39.7%</td> <td>53.2%</td> <td>60.4%</td> <td>60%以上</td> </tr> </table> <p>【地域、家庭、学校が連携して子どもを育てる環境が整っていると認識している県民の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>H19年度</td> <td>H21年度</td> <td>H22年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>80.4%</td> <td>84.3%</td> <td>83.3%</td> <td>増加</td> </tr> </table> <p>2) 農業高校や生産者団体等と連携した農業体験学習、共同生活を行う「通学合宿」など、体験を取り入れた学習による食育を推進するとともに、効果的な学習のための学習資料を作成し、活用を図った。</p>	H18年度	H21年度	H22年度	目標値	39.7%	53.2%	60.4%	60%以上	H19年度	H21年度	H22年度	目標値	80.4%	84.3%	83.3%	増加	① 指導体制・内容の更なる充実	<p>1)今後も各種研修会において全体計画の必要性等について説明し、各学校で計画的な食育が行われるよう働きかける。</p> <p>2)食育推進が新学習指導要領に明記され、実践段階に入ったことから、指導体制の更なる充実と教材の有効活用を含めた効果的な指導方法が求められる。</p>
H18年度	H21年度	H22年度	目標値																	
39.7%	53.2%	60.4%	60%以上																	
H19年度	H21年度	H22年度	目標値																	
80.4%	84.3%	83.3%	増加																	
			② 地域と家庭と学校等との連携強化	<p>1)児童生徒の食育は家庭が担う部分が大いいため、学校と家庭が連携を密にするほか、地域の食生活改善員や生産者等とも連携を図ることが必要。</p> <p>2)保護者への啓発と連携体制の一層の強化を図るとともに、学習指導要領を踏まえ、今後とも食育の組織的・計画的な実践を支援することが必要。</p> <p>3)大部分の保護者は理解し協力を得られるが、食育の重要性を理解してもらいたい保護者にはなかなか声が届きにくい。</p> <p>【朝食を欠食する県民の割合(小学5年生)】</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>策定時</td> <td>H22年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>県(小5)</td> <td>2.9%</td> <td>2.0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>国(子ども)</td> <td>4.1%</td> <td>1.6%</td> <td>0%</td> </tr> </table>		策定時	H22年度	目標値	県(小5)	2.9%	2.0%	0%	国(子ども)	4.1%	1.6%	0%				
	策定時	H22年度	目標値																	
県(小5)	2.9%	2.0%	0%																	
国(子ども)	4.1%	1.6%	0%																	

主な施策		主な取組内容及び成果		課題(項目)	課題											
2 人から人へ つながり文化	③ 都市と農山漁村交流等の促進	<p>1) 体験により食に対する関心と理解を深めるため、生産者や関係機関と連携し、一体となった農業体験学習を実施。</p> <p>2) 農業体験施設等のガイドブックの作成による情報発信、直売所フェアやキャンペーンによる販売促進活動、各種ネットワーク会議等により、都市と農村・漁村の交流促進を図った。</p> <p>【ちばの直売所フェアの開催】参加直売所141施設</p> <p>【「ちばっ子元気に」食と農の体験事業】(H18～H21年度) 48市町村、年間約30校で実施</p> <p>【教育ファームの取組がなされている市町村数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>45%</td> <td>85.2%</td> <td>60%以上</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>0.4%</td> <td>31.7%</td> <td>60%以上</td> </tr> </tbody> </table>		H18年度	H22年度	目標値	県	45%	85.2%	60%以上	国	0.4%	31.7%	60%以上	<p>③ 参加・体験による普及啓発</p> <p>④ グリーン・ブルーツーリズムの拡充</p> <p>⑤ 教育ファームの取組拡大</p>	<p>1) 県民が正しい食習慣や運動習慣を理解、実践するために、情報提供や普及啓発が必要。</p> <p>2) 食育を実践につなげるためには、単なる知識の習得にとどまらず、県民自ら考え、参加・体験できるような場と機会の創出が求められる。</p> <p>1) 本県は豊かな自然と里山・里海及び農林漁業の営みや農漁村生活文化など、グリーン・ブルーツーリズムのポテンシャルが極めて高く、これらは観光立県ちばの重要な観光資源でもある。</p> <p>2) 官民一体となった観光プロモーションの推進とメディアを活用した効果的な情報発信及び受入体制と交流施設の整備が必要。</p> <p>1) 農林水産業体験学習(教育ファーム)は自然や食に関わる人々の様々な活動への理解を深める機会であり、豊富な体験フィールドを有する本県としては、国や市町村と連携し、取り組みを拡大していくことが必要。</p> <p>2) 市町村、民間において、類似の農業体験をすでに実施。市町村の自主性に任せてほしい、県で地域の実情を踏まえ広域的な取組を進めるべきとの考え方もある。</p> <p>(国) 1) 教育ファームは、農や食についての理解を深めるよい機会であり、ネットワークを拡大していくことが大切。</p>
			H18年度	H22年度	目標値											
県	45%	85.2%	60%以上													
国	0.4%	31.7%	60%以上													
④ 地域の優れた食文化等の継承	<p>1) 千葉県の食文化を学び体験するため、郷土食講座等を実施するとともに、おさかな普及員の派遣や各種テキストにより地域の優れた食文化に関する食育の推進を図った。</p> <p>2) 地域の食文化の継承や特産物、イベント等について、「ちばの食育」ホームページから情報発信。</p> <p>【高等学校へのおさかな普及員の派遣】10回</p> <p>【魚食普及冊子】3,000部</p> <p>【郷土料理や伝統料理への認知度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>82.5%</td> <td>80%以上</td> </tr> </tbody> </table>	H19年度	H22年度	目標値	60%	82.5%	80%以上	<p>⑥ 地域の食文化・郷土料理の情報発信強化</p> <p>⑦ 体験による食文化への理解促進</p>	<p>1) 地域の優れた食文化・郷土料理は有力な観光資源であるため、官民一体となった観光プロモーションの推進とメディアを活用した効果的な情報発信及び受入体制と交流施設の整備が必要。</p> <p>1) 県内各地の郷土料理や伝統食に触れ、さらにちばの食文化への理解を深めてもらうことが重要。</p> <p>2) 料理教室や体験機会の一層の充実が求められる。</p>							
H19年度	H22年度	目標値														
60%	82.5%	80%以上														

主な施策		主な取組内容及び成果	課題(項目)	課 題																																	
3 作り手から 買い手へ つなぐ食べ物	⑤ 地産地消の推進	<p>1) 地場産物を購入してもらうため、定期市や量販店でのフェア、流通システムの構築等を行うとともに、実需者向けには商品開発会議等、産地向けには意見交換会等を実施した。</p> <p>2) 年4回の販売促進月間や部門別計画を策定し戦略的な販売促進を行うとともに、県産品のブランド化、イベントの開催やPR資材の作成、ホームページを活用した情報発信を実施。</p> <p>3) <u>市町村や生産者団体等と連携し、学校給食における地産地消の推進や都市農山漁村の交流による地域の活性化を図った。</u></p> <p>【学校給食における県産物の使用割合と米飯給食の実施回数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>食材数</td> <td>23%</td> <td>22.6%</td> <td>全国上位</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>食材数</td> <td>21.2%</td> <td>26.1%</td> <td>30%以上</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>重量</td> <td>86.7%</td> <td>87%</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>米飯給食 (週平均)</td> <td>3.2回</td> <td>3.4回</td> <td>全国 トップレベル</td> </tr> </tbody> </table>			策定時	H22年度	目標値	県	食材数	23%	22.6%	全国上位	国	食材数	21.2%	26.1%	30%以上	県	重量	86.7%	87%	増加	県	米飯給食 (週平均)	3.2回	3.4回	全国 トップレベル	<p>① 地産地消の戦略的な推進</p> <p>② 県産物の活用促進と地域の食文化への理解促進</p> <p>③ 地場産物の活用</p>	<p>1)全国有数の農林水産県であるちばの農林水産物の良さを知り、消費してもらう地産地消の取組を戦略的に推進することが必要。</p> <p>【千葉県産農産物を購入したいと思う県民の割合】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19年度</th> <th>H21年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78.1%</td> <td>78.3%</td> <td>76.5%</td> <td>増加</td> </tr> </tbody> </table> <p>1)農業県である本県の特性を生かし、学校給食では引き続き食材ベースでの県産物の使用を促進するため、市町村段階での学校給食千産千消推進会議の設置を検討。地域の食文化に対する理解の促進を図ることが重要。</p> <p>2)食の安全・安心の観点から、生産者等の協力を得ながら推進することが必要。</p> <p>(国) 1)学校給食における地場産物活用による効果とともに、安定的な供給への配慮も大切。</p> <p>2)大都市圏と地方を同一に論じるのではなく、地域性への配慮が大切。</p> <p>1)地場産物を活用する組織や仕組みはできているので、関係者が実際にこれらを稼働させることが必要。</p>	H19年度	H21年度	H22年度	目標値	78.1%	78.3%	76.5%	増加
			策定時	H22年度	目標値																																
県	食材数	23%	22.6%	全国上位																																	
国	食材数	21.2%	26.1%	30%以上																																	
県	重量	86.7%	87%	増加																																	
県	米飯給食 (週平均)	3.2回	3.4回	全国 トップレベル																																	
H19年度	H21年度	H22年度	目標値																																		
78.1%	78.3%	76.5%	増加																																		
⑥ 食の安全・安心の確保	<p>1) <u>食品等の安全・安心の確保に向けて、食品事業者等を対象としたリスクコミュニケーションや各種講習会、生産者を対象とした農業生産工程管理講習会の開催とともに、県産農産物・食品等の生産から消費までの監視・指導を実施。</u></p> <p>2) 環境保全型農業を推進し、「ちばエコ農業」に対する県民の理解促進を図るとともに、交流会の開催等によるバイオマスの利活用とエコフィードの利用推進に取り組んだ。</p> <p>【ちばエコ農業販売協力登録店数】H23年度454店</p>	④ 食品の安全性に対する理解促進	<p>1)食品の安全性に対する不安や不信が高まる中、①食品事業者や生産者など食品供給サイドに対する安全性の管理・指導の徹底、②県民(消費者)に対する食品の安全性に関する知識の普及と理解促進が必要。</p> <p>2)県産農林水産物の放射性物質検査については、今後も国、市町村、関係機関等と連携して取り組むとともに、県民への情報提供及び知識の普及が必要。</p> <p>【食品表示ウォッチャー】100名</p> <p>【ウォッチャー向け食品表示研修会】2回</p> <p>【食品の安全性に関する認知度】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>64.9%</td> <td>56.8%</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>45.7%</td> <td>37.4%</td> <td>60%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(国) 1)食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている国民の割合が増加することを目指して、更に食品の安全性に関する知識の普及を強化することが必要。</p>		策定時	H22年度	目標値	県	64.9%	56.8%	70%以上	国	45.7%	37.4%	60%以上																						
	策定時	H22年度	目標値																																		
県	64.9%	56.8%	70%以上																																		
国	45.7%	37.4%	60%以上																																		

主な施策		主な取組内容及び成果	課題(項目)	課 題												
3 作り手から 買い手へ つなぐ食べ物	⑥ 食の安全・安心の確保	1)健康ちば協力店の登録数の拡大、普及啓発及びホームページへの掲載により、県民へ周知。 普及啓発状況 (飲食店対象) 個別指導15件、集団指導48回8,392件 (県民対象) 個別指導1,866件、集団指導55回10,436件	⑤ 食品を選ぶ力の養成	1)健康増進への関心と食品の安全性に対する不安が高まる中、①食品の栄養成分や安全性に関する知識・情報の周知徹底、②自ら食品を選択できる力の養成が求められる。 2)登録店舗数の増加や健康づくりに取り組む飲食店等への支援を充実させていくことが必要。 【栄養成分表示を参考にする県民の割合】												
		2)健康ちば協力店の登録要件を見直した結果、以前は登録できなかった店舗の申請が増加。		<table border="1"> <tr> <td>H19年度</td> <td>H21年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>52.8%</td> <td>48.2%</td> <td>60%以上</td> </tr> </table>	H19年度	H21年度	目標値	52.8%	48.2%	60%以上						
H19年度	H21年度	目標値														
52.8%	48.2%	60%以上														
4 わたし、 あなた、 みんなへ つなぐ輪	⑦ 普及啓発と情報発信の強化	1) イベントの開催を通して広く県民へ食育の浸透を図るため、市町村や食育活動団体等と連携して食育シンポジウムや地域食育推進大会を開催。 ①食育シンポジウム 千葉市内で開催：H20約1,200名、H21約300名参加 ②地域食育推進大会 県内10地域で開催：H20・3,380名、H21・2,189名、 H22・2,280名参加	① 普及啓発の強化	1)県民が正しい食習慣や運動習慣を理解、実践するために、さらなる情報提供や普及啓発が必要。												
		2) ボランティアや企業との情報交換を行い、食育活動状況を紹介する情報交換会を開催。	② 効果的な情報発信	1)食品の安全性や栄養バランスに関する情報提供は充実しているので、それらの情報を県民が確認し、自身や家族の健康のために役立てようとする意識の醸成が重要。 2)情報の効果的な発信と知る機会の創出に注力することが必要。 3)登録店舗数の増加や健康づくりに取り組む飲食店等への支援を充実させていくことも有効。												
		3) 千葉県の子育てに関する情報を発信するため、「ちばの食育」ホームページを食育情報のキーステーションと位置づけ、食育に関する取組やイベントの開催等の情報を掲載。 【食育月間の取組(県・市町村)】(H22)255件→ (H23)259件	③ ホームページの工夫	1)ホームページの閲覧度合を高めるとともに、情報を入手した県民が共感し、実際に行動に移してみたいとなるような、効果的な情報発信の工夫が求められる。												
		<p>平成23年度食育月間の取組(6月) (件)</p> <table border="1"> <tr><td>体験事業</td><td>59</td></tr> <tr><td>料理教室</td><td>54</td></tr> <tr><td>教育・講演・研修</td><td>35</td></tr> <tr><td>広報による普及・啓発</td><td>33</td></tr> <tr><td>学校給食を活用した食育</td><td>21</td></tr> <tr><td>相談・指導</td><td>14</td></tr> <tr><td>食育授業</td><td>10</td></tr> </table>	体験事業	59	料理教室	54	教育・講演・研修	35	広報による普及・啓発	33	学校給食を活用した食育	21	相談・指導	14	食育授業	10
体験事業	59															
料理教室	54															
教育・講演・研修	35															
広報による普及・啓発	33															
学校給食を活用した食育	21															
相談・指導	14															
食育授業	10															

主な施策	主な取組内容及び成果	課題(項目)	課題																																																														
<p>4 わたし、あなた、みんなへつなぐ輪</p>	<p>⑧ ボランティア・サポート企業への支援</p> <p>1) <u>ちば食育ボランティアやちば食育サポート企業制度への理解促進。</u> 2) <u>元気な「ちば」を創る食育応援企業連絡会の運営及び情報交換会の開催等により、企業間、企業とボランティアの連携を図った。</u></p> <p>【食育ボランティア数】</p> <table border="1" data-bbox="834 611 1350 720"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>5,081名</td> <td>5,287名</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>28万人</td> <td>34.5万人</td> <td>20%以上増加</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="510 768 1469 890"> <thead> <tr> <th>登録者数</th> <th>食生活改善</th> <th>千産千消</th> <th>食品流通加工</th> <th>農林水産業</th> <th>農林水産物加工</th> <th>食料・農林水産業情勢</th> <th>料理</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人登録者</td> <td>266</td> <td>77</td> <td>21</td> <td>6</td> <td>51</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>117</td> </tr> <tr> <td>団体登録者</td> <td>5,021</td> <td>3,155</td> <td>383</td> <td>-</td> <td>365</td> <td>138</td> <td>71</td> <td>2,410</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,287</td> <td>3,232</td> <td>404</td> <td>7</td> <td>416</td> <td>153</td> <td>85</td> <td>2,527</td> </tr> </tbody> </table>		策定時	H22年度	目標値	県	5,081名	5,287名	増加	国	28万人	34.5万人	20%以上増加	登録者数	食生活改善	千産千消	食品流通加工	農林水産業	農林水産物加工	食料・農林水産業情勢	料理	その他	個人登録者	266	77	21	6	51	15	14	117	団体登録者	5,021	3,155	383	-	365	138	71	2,410	合計	5,287	3,232	404	7	416	153	85	2,527	<p>⑤ 食育ボランティアの養成と活動支援</p>	<p>1) <u>地域に根ざした食育活動を実践している「ちば食育ボランティア」の「ちば型食生活」の普及・啓発活動など、その役割は重要。</u></p> <p>2) <u>今後も食生活改善、地産地消の推進、農業体験活動、郷土料理指導など様々な分野での活動を支援することが必要。</u></p> <p>3) <u>食育ボランティア活動に参加意欲の無い県民について、どのように啓発するかが問題。</u></p> <p>【ちば食育ボランティア活動報告数】</p> <table border="1" data-bbox="1872 594 2415 663"> <thead> <tr> <th>H18年度</th> <th>H21年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>633件</td> <td>852件</td> <td>686件</td> <td>20%増</td> </tr> </tbody> </table> <p>【ボランティアへの参加意欲がある県民の割合】</p> <table border="1" data-bbox="1872 762 2332 842"> <thead> <tr> <th>策定時</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40.1%</td> <td>32.1%</td> <td>45%以上</td> </tr> </tbody> </table>	H18年度	H21年度	H22年度	目標値	633件	852件	686件	20%増	策定時	H22年度	目標値	40.1%	32.1%	45%以上
	策定時	H22年度	目標値																																																														
県	5,081名	5,287名	増加																																																														
国	28万人	34.5万人	20%以上増加																																																														
登録者数	食生活改善	千産千消	食品流通加工	農林水産業	農林水産物加工	食料・農林水産業情勢	料理	その他																																																									
個人登録者	266	77	21	6	51	15	14	117																																																									
団体登録者	5,021	3,155	383	-	365	138	71	2,410																																																									
合計	5,287	3,232	404	7	416	153	85	2,527																																																									
H18年度	H21年度	H22年度	目標値																																																														
633件	852件	686件	20%増																																																														
策定時	H22年度	目標値																																																															
40.1%	32.1%	45%以上																																																															
	<p>⑨ 食育コーディネーターの育成</p>	<p>1) <u>情報交換会の開催等により、企業間、企業とボランティアの情報交換を行うとともに、食育指導者や食生活改善推進員を対象とした研修会を開催し、地域における食育を支える人材の育成に取り組んだ。</u></p> <p>【ちばの食育を支える民間の力の情報交換会】 130名参加</p>	<p>⑥ 食育コーディネーターの養成</p> <p>1) <u>県民一人ひとりの食育に対する理解促進と日常生活における実践を目指すには、身近な食育ボランティアの役割と効果は大きい。</u></p> <p>2) <u>食育ボランティアの活動をさらに多様化、広域化し、活発なものに発展させるには、ボランティア同士をつなぐコーディネーターの役割と機能が有効。</u></p>																																																														

主な施策	主な取組内容及び成果	課題(項目)	課題												
<p>4</p> <p>わたし、あなた、みんなへつなぐ輪</p>	<p>⑩ 市町村や関係団体等との連携強化</p>	<p>1) 千葉県食育推進県民協議会や地域食育推進会議の開催により、市町村や食育関係団体等との連携と協力体制を確立。</p> <p>2) 食育推進の中心の実施主体である市町村における食育推進計画の作成を支援。</p>	<p>⑦ 市町村との連携強化</p> <p>1) 県民にとって身近な市町村が、食育推進計画を策定し実践することの意義と効果は大きい。</p>												
		<p>【地域食育推進会議】10地域で開催 市町村食育推進計画策定の進捗状況、学校給食における千産千消の推進、地域食育推進大会及び地域における食育活動状況等について、意見交換等を実施。</p> <p>3) 各研究協議会を通じて、市町村教育委員会関係者に対し、地域全体での食育の推進を働きかけた。</p>	<p>⑧ 市町村における食育推進計画の策定</p> <p>1) 食育の実践を促すには、県民により身近な存在である市町村において、食育推進計画を策定し、施策を展開することが重要。</p> <p>2) すでに作成している市町村の事例なども紹介して、支援することが必要。</p> <p>3) 計画策定の窓口となる部署が決まらない、また、すでに食育の取組は活発に実施されているが、計画を作成するに至っていない市町村について、一層の働きかけや支援が必要。</p> <p>【市町村食育推進計画を作成・実施している又は作成中の市町村】</p> <table border="1" data-bbox="1863 1014 2347 1108"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>達成状況</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県</td> <td>4</td> <td>14(25.9%)</td> <td>全市町村</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>—</td> <td>39.5%</td> <td>50%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(未作成の40市町村について)</p> <p>1) 9市町村は、既存の他計画の中に盛り込まれ、実施。</p> <p>2) その他31市町村においても、保健センター、保育所、学校等において、食育月間などに食育に関する取組を実施。</p> <p>【市町村の食育月間の取組】(H22)241件→(H23)251件</p> <p>(国)</p> <p>1) 市町村における推進計画の作成に当たっては、すでに作成している市町村の事例を提供したり、作成のメリットを広報したりするなどして、未作成の市町村に作成を促していくことが課題。</p>		策定時	達成状況	目標値	県	4	14(25.9%)	全市町村	国	—	39.5%	50%以上
			策定時	達成状況	目標値										
県	4	14(25.9%)	全市町村												
国	—	39.5%	50%以上												
<p>⑨ 地元関係者の推進会議の設置</p>	<p>1) 市町村教育委員会を中心に、地域の関係者が集まる会議を設置し、効率的に食育活動を推進することが必要。</p>														

主な施策		主な取組内容及び成果	課題(項目)	課 題														
<p>4</p> <p>わたし、あなた、みんなへつなぐ輪</p>	<p>⑪ 官民パートナーシップによる運動の展開</p>	<p>1) 「ちばの食育を支える民間の力の情報交換会」を開催し、ちば食育サポート企業や元気な「ちば」を創る食育応援企業連絡会と情報交換の場を設け、取組の連携が図られるよう努めた。</p> <p>【企業連絡会による食育月間の取組】 (H22)30件→(H23)27件</p> <p>2) 大手小売業者の取り組む地域貢献に関して、県庁HP等によるPRや意見交換を通じ、企業の取組を促進。</p> <p>3) 「ちば食べきりエコスタイル」取組に賛同していただける事業者に登録を呼びかける制度を開始。</p> <p>【ちば食べきりエコスタイル登録事業者】(H23年11月) 51店舗</p> <p>【食べ残しを減らす努力をしている県民の割合】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.3%</td> <td>91.7%</td> <td>増加</td> </tr> </tbody> </table>	H19年度	H22年度	目標値	88.3%	91.7%	増加	<p>⑩ 観光との連携</p>	<p>1)千葉県には道の駅や農水産物の直売所が多数立地しているので、これらを情報発信、販売、交流等の拠点としてより明確に位置づけ、観光や商工部門とも連携を強化し、戦略的に活用することが必要。</p> <p>【観光農林漁業入込数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H18年度</th> <th>H21年度</th> <th>H22年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>389万人</td> <td>395万人</td> <td>408万人</td> <td>400万人</td> </tr> </tbody> </table>	H18年度	H21年度	H22年度	目標値	389万人	395万人	408万人	400万人
		H19年度	H22年度	目標値														
	88.3%	91.7%	増加															
H18年度	H21年度	H22年度	目標値															
389万人	395万人	408万人	400万人															
<p>⑫ 大学等との連携の強化</p>	<p>1) 県内モデル市における小学校との協働による子どもの健康実態調査等を実施するとともに、「ちばの食育を支える民間の力の情報交換会」を開催し、食育に関する知識の共有を図った。</p>	<p>⑪ 企業との連携・協働</p>	<p>1)食品を取り扱う大手小売業者や外食産業は、県民と直接接する場と機会を有しているため、食育活動を効果的に推進するためには最も適切な主体として位置付けられるので、新規連携先の開拓も含め、今後も引き続き連携を強化することが必要。</p> <p>2)元気な「ちば」を創る食育応援企業連絡会は、活動が活発かつ充実してきたが、さらに今後も連携を強化し、運営を拡充していくことが望まれる。</p>															
		<p>⑫ 「健康ちば協力店」との連携</p>	<p>1)「健康ちば協力店」の登録店舗数の増加や健康づくりに取り組む飲食店等への支援を充実させていくことが必要。</p> <p>【健康ちば協力店数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H20.3</th> <th>H22.3</th> <th>H23.6</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>851店</td> <td>930店</td> <td>922店</td> <td>1,200店</td> </tr> </tbody> </table>	H20.3	H22.3	H23.6	目標値	851店	930店	922店	1,200店							
H20.3	H22.3	H23.6	目標値															
851店	930店	922店	1,200店															
		<p>⑬ 大学との連携・協働</p>	<p>1)食育は健康に直接関わる活動であることから、大学等に働きかけ、専門的な見地からのアドバイスや科学的な調査・分析結果に基づき、連携した取組を行うことが必要。</p>															